［書評］

# ユーリー・S・マスロフ著、林田理恵・金子百合子訳『アスペクト論』

（ひつじ書房、2018 年、432 頁）

堤　正典

本書はソヴィエト連邦の言語学者ユーリー・S・マスロフ Юрий Сергеевич Маслов (1914–1990) の *Очерки по аспектологию* (Л.: Изд-во Ленинградского университета, 1984.) の全訳である [1]。原著者はソ連時代のレニングラード国立大学で一般言語学講座主任を 1960 年から 1984 年まで務め、ソ連の言語研究をリードしたひとりである。原著者には版を重ねた言語学の教科書（Маслов 1997）等多数の著作があるが、研究の中核はアスペクトであると言ってよいだろう。したがって、その集大成である本書こそが最も代表的な著作と考えられる。原著は、没後に刊行された著作集（Маслов 2004）にも、著作の筆頭にそのまま掲載されている。原著は紙装版の質素な造りであったが、日本でハードカバーとしてよみがえり、誠に喜ばしい出版である。

原著者は 1940 年にドイツ語の複合過去の発生についての研究で博士候補論文を執筆し、1957 年にブルガリア語のアスペクト研究で博士号（教授資格）を取得している。文法的なアスペクトのないドイツ語と完了体・不完了体に加えて過去形ではインパーフェクトとアオリストの対立がからむブルガリア語という、多様なアスペクト・テンス体系を深く探求したことが研究に深みと広がりを与えることになったであろう。他のスラヴ系言語とともにブルガリア語とゲルマン系言語とについては、その後も研究が続けられ、本書でも様々な箇所で言及がある。

さて、本書は 4 章に分かれた 13 節からなる。既出の論文やその一部を書き直したもの、あるいは他の言語での刊行をロシア語に改めたものが合わせて 11 節ある。ただし、既出のものが多いといっても単なる論文の寄せ集めではなく、原著者も述べている通り（訳書Ⅲ頁）、全体で一冊が成り立つ構成となっており、マスロフの「アスペクト論」が詰め込まれている。

原著の出版からすでに 35 年の年月が経っている。発表が最も古い論文からはすでに 70 年を超えている。しかし、この本の今日的意義は失われてはいない。マスロフのアスペクトについての研究は、現在に至るアスペクト研究に大きな影響を及ぼし、今なお基礎であり、かつその先に展開したものでもある。

マスロフのアスペクト研究の広がりの例をいくつかだけ挙げれば、まず愛弟子 A. B. Бондарко の研究に直接影響を与えたのは当然のことであり（Бондарко, Буланин. 1967;

Бондарко 1971 等)、それは аспектуальность（アスペクチュアリティ）等の研究としてレニングラード・サンクトペテルブルクの機能文法へと発展している（Бондарко 1983 等)。また、非ロシア語話者に対するロシア語教育において Рассудова（1968, 1982）に活用され[2]、ロシア国外のロシア語研究においても、例えば Forsyth（1970）等で参照された。そして、ロシア語アスペクト研究の範囲を超えて、通言語学的・一般言語学的なアスペクト論である Comrie（1976）の土台のひとつもマスロフの研究であると言ってよいであろう[3]。パラメーターを設定してスラヴ系諸言語におけるアスペクトを比較分類した Dickey (2000) にも数か所で言及があり、また、ロシア語アスペクト論の概説書である Зализняк, Шмелев (2000: 47–52) においては体のペアの判定に完了体過去形と不完了体の歴史的現在との対応を用いることが「критерий Маслова マスロフ基準（マスロフ判定[4]）」として取り上げられている。

本書の訳者は、日本におけるロシア語アスペクト研究の代表的なお二人である。原著では、ロシア語をはじめとしたスラヴ系言語の他にも、様々な古語や現代語、さらには方言にまで言及があり、その用例がひかれて、仔細で厳密な考察が展開される。このような内容を日本語に移し替えることは相当な作業であっただろうと思われる[5]。

さて、本書の内容であるが、まさにマスロフのアスペクト研究のエッセンスが凝縮された第 1 章「アスペクト論の基本概念」では、perfective / imperfective だけではなく、aspectuality や Aktionsarten、imperfect / aorist、perfect 等が論じられる[6]。第 2 章「スラヴ諸語における完了体／不完了体カテゴリー」は、ロシア語やブルガリア語をはじめとしてスラヴ系言語におけるアスペクト体系がいくつかの角度から論述される。第 3 章「スラヴ諸語におけるインパーフェクトとアオリスト」は現代ロシア語では失われてしまった imperfect と aorist が取り上げられ、古期ロシア語（第 1 節）と現代ブルガリア語（第 2 節）が論じられる他に、imperfect / aorist が関わるアスペクト・テンス体系の違いからスラヴ系諸言語の「語りのテクスト構造」における 3 つの類型が提示される（第 3 節)。第 4 章「非スラヴ諸語のアスペクト論と対照言語学的アスペクト論の諸問題」は、ゴート語の限界性を表す接頭辞（第 1 節)、印欧諸言語の「所有パーフェクト」[7] の起源（第 2 節)、ゲルマン系・ロマンス系・スラヴ系の諸言語における単純過去形の消失（第 3 節）が論じられる。

訳者の林田もふれているが（訳書 388–389 頁)、マスロフの研究には共時的なものだけではなく、通時的なものも多く含まれる。本書でも各章に通時的な考察が含まれ、特に第 4 章は通時的な研究の部分が大きい。

訳書ではロシア語の вид は基本的に「アスペクト」と訳されている（訳書 51 頁第 1 章注 1［訳者注］）[8]。また、原著でアスペクトの対立項を表す用語の使い分けとして「原則として、ロシア語のように文法的にアスペクト対立が確立している場合で、動詞そのものに言及する際に совершенный вид (СВ) – несовершенный вид (НСВ)」が

用いられ、「アスペクト対立が文法的に確立していない場合や、語形成的過程に言及する場合 перфектив – имперфектив」としていることに対して、訳書では前者の対は「完了体 − 不完了体」、後者は「perfective – imperfective」と訳し分けられている。この使い分けは、原著で明確に示されているわけではなく、訳者たちが気付いたもので、訳書 51–52 頁第 1 章注 9［訳者注］と林田による「マスロフ著『アスペクト論』によせて」の中で（訳書 390–391 頁）述べられている[9]。

その他の用語について、способ действия (Aktionsart) の分類名称等、原著に出てくるもので定訳がないものも多い。この訳書での訳語がひとつの基準になりうるだろう。

ロシア語や他の言語の用例には、翻字や全文についてのグロスはないものの、例には日本語訳が添えられ、文法形式の表示が必要な箇所にはそれが付けられている[10]。

注は、訳書では原注と訳注はならんで各章末にまとめられている（短い訳注は本文に埋め込まれている）。ただし、参照文献のみの注は本文中に丸括弧内にそれが示され、巻末に文献表を挙げるというスタイルをとっている。原著ではすべて脚注で、節ごとに番号がふられているので、原著と訳書では注のつけ方は異なり、注番号は一致しない。このことは、原著と訳書を注まで対比して読むような際には注意が必要である。なお、参照文献を脚注で示すスタイルなので原著にはない参考文献リストは、ローマ字文献とキリル文字文献に分けられ、それぞれアルファベット順に並べられている。また、訳出にあたって参照したという日本語文献の一覧も挙げられている。さらに、原著にある事項索引・言語索引も日本語訳の五十音順で巻末に添えられている。

マスロフの研究は日本のいくつかの研究者にも直接間接の影響を与えている[11]。とはいえ、日本で広く詳細が知られているわけではなく、マスロフのアスペクト研究の集大成が日本語で読むことができるようになったことで、より広く深く浸透することが可能となった。ロシアの言語学はなかなか日本に紹介されないが、この訳書はその空白を大きく埋めることになる。

## 注

1 マスロフの著作の邦訳は菅野 (1990, 1992) があるが、本書と重複するのは、第 1 章「アスペクト論の基本概念」のみである（菅野 1992: 98–139「Ju・S・マスロフ『アスペクト論の基本概念について』」）。

2 Рассудова (1968) はさらにその日本語訳（磯谷訳編 1975）や磯谷 (1977) へとつながっている。

3 これらの研究は逆に原著において参照されている。

4 「マスロフ判定（Маслов 判定）」の訳語は金田一（2014: 4）による。

5 このような大著なので仕方がないことで、誤訳というよりも校正ミスのようなものが発見できるが、概して原著のアスペクト研究の論旨を壊すようなものではないと思われる。

6 Aspectuality (аспектуальность) の定義には、「動作がどのように推移するか」の意味が「文のいくつかの構文的要素が加わって、形態的、語形成的、語彙的手段によって表現される機能的意味カテゴリー」と、Бондарко, Буланин (1967: 50) が引用されている（訳書 5 頁）。なお、aspectuality には時間表現の様々な事柄が関わることになり、このことからも本書での議論の対象は広くなる可能性をもつ。Comrie (1985) 等でテンスとされる perfect ついての論考も、それがテンスにも関わることを断りながら本書に含まれている。

原著の前にすでに出版されていた、いわゆる『80 年文法』（Шведова и др. 1980: 604–613）では、弟子の A. B. Бондарко が «Употребление видов (§§1437–1454)»（体の用法）を執筆し、そこでは意味のとらえ方をそれまでの общее / частное значение から категориальное грамматическое значение / тип употребления へ変更している。本書でも、後者の用語も使われているところがあるが、前者との理論的差異にはあまりこだわってないように思われる。Категориальное грамматическое значение / тип употребления についての詳細は Бондарко (1978) で論じられている。

7 Perfect（完了）を表す形式として、英語の have のように所有動詞を助動詞に使う言語や、ロシア語の方言のように存在動詞を用いた所有構文に準じた形式を使う言語がある。

8 原著でも「国際的な用語」では аспект とされる（原著 : 5［訳書 1 頁］）。なお、このことはマスロフの他の著作でも述べられている（Маслов 1959: 157 等）。

9 ただし、第 2 章第 2 節「アスペクト・パラダイムにおける機能面での完全性と形態的規則性」（訳書 86-92 頁）ではロシア語について言及するときも一貫して перфектив – имперфектив だけが用いられているが、ここでは「完了体 – 不完了体」の訳語を使っているということである（訳書 52 頁第 1 章注 9, 391 頁）。なお、この節は、注によると、初出は英語で発表されたものである（訳書 143 頁第 2 章注 9）。

10 丸括弧を用例の訳語や訳文、あるいは訳出した原語での用語を括るために使用したためか、原著の丸括弧はダッシュに置きかえられている。

11 訳者の林田も「マスロフ著『アスペクト論』によせて」（訳書 387–392）でロシアのアスペクト研究の日本への影響に言及している（訳書 390 頁）。

## 参照文献

Бондарко, А. В. 1971. *Вид и время русского глагола: значение и употребление*. М.: Просвещение.

Бондарко, А. В. 1978. О категориальных значениях видов русского языка. // *Ученые записки Тартуского государственного университета*, вып. 439: *Семантика и функционирование категории вида русского языка. Вопросы русской аспектологии III*, с. 3-9.

Бондарко, А. В. 1983. *Принципы функциональной грамматики и вопросы аспектологии*. Л.; «Наука», Ленинградское отделение.

Бондарко, А. В., Буланин. Л. Л. 1967. *Русский глагол*. Л.: Просвещение, Ленинградское отделение.

Зализняк, Анна А., Шмелев А. Д. 2000. *Введение в русскую аспектологию*. М.: Языки русской культуры.

Маслов, Ю. С. 1959. Глагольный вид современном болгарском литературном языке (значение и употребление) // *Вопросы грамматики болгарского литературного языка*. М.: Изд-во Академия наук СССР.

Маслов, Ю. С. 1997. *Введение в языкознание*. Изд. 3-е, испр. М.: Высшая школа.

Маслов, Ю. С. 2004. *Избранные труды: Аспектология. Общее языкознание*. М.: Языки славянской культуры. (Сост. и ред. А. В. Бондарко и др.)

Рассудова, О. П. 1968. *Употребление видов глагола в русском языке*. М.: Изд-во Московского университета.［ラスードヴァ , オー・ペー（磯谷孝訳編）.『体の用法：ロシア語動詞』吾妻書房 , 1975.］

Рассудова О. П. 1982. *Употребление видов глагола в современном русском языке*. М.: Русский язык.

Шведова, Н. Ю. и др. (ред.) 1980. *Русская грамматика*. Т. Ⅰ. М.: Наука.

Comrie, Bernard. 1976. *Aspect: an introduction to the study of verbal aspect and related problems*. Cambridge: Cambridge University Press.

Comrie, Bernard. 1985. *Tense*. Cambridge: Cambridge University Press.

Dickey, Stephen M. 2000. *Parameters of Slavic aspect: a cognitive approach*. Stanford, California: CSLI Publications.

Forsyth, J. 1970. *A grammar of aspect: usage and meaning in the Russian verb*. Cambridge: Cambridge University Press.

磯谷孝（編著）. 1977.『演習ロシア語動詞の体』吾妻書房 .

菅野裕臣 . 1990.『動詞アスペクトについて（Ⅰ）』調査研究報告 29.（学習院大学東洋文化研究所）

菅野裕臣 . 1992.『動詞アスペクトについて（Ⅱ）』調査研究報告 35.（学習院大学東洋文化研究所）

金田一真澄 . 2014.「ロシア語の動詞の体を語る－＜体のペア＞という文法カテゴリー」『ロシア語研究』24: 1–15.（ロシア語研究会「木二会」）